

目 次

生物工学研究者のキャリアパスを考える	岡澤 敦司	(1)
研究を志す君へ	池田 正人	(2)
博士の視点で改革論議を	杉森 純	(4)
日本学術振興会特別研究員になって～女性研究者を目指して～	柳原 佳奈	(5)
なんのための研究開発？	幡多 徳彦	(6)
理系大学院における実務者教育；米国 Professional Science Master's (PSM) と 横浜国立大学大学院工学府 PED プログラム	鈴木 市郎・岡崎 慎司・小泉 淳一	(7)
医工連携の現場から	宮本 義孝	(10)
今、遺伝カウンセラーとして	安藤 記子	(12)
企業での研究という選択肢	有村 英俊	(13)
若手研究者がキャリアパスを描く上で必要なこと	奥井 隆雄	(14)
国際生物学オリンピックの育むもの ～次世代研究者への夢と期待～	小林 興	(16)
ベンチャー企業だからこそ	原田 佳子	(18)
退職のち放浪 時々起業 ところによって研究	原中 正行	(19)
バイオクラスターに賭ける夢	内海 潤	(22)
ものづくり研究の醍醐味	荒 勝俊	(24)
私のキャリアパス ～ドクター取得からポスドク、企業研究所まで～	長森 英二	(26)
ポスドク問題と科学技術キャリア創生	兼松 泰男	(27)
高等学校における生物教育の将来像 ～SSHの取り組みをとおして見えてきたもの～	森田 達己	(29)
青年海外協力隊のひとりとして ～ネパールと共に	八百屋 さやか	(32)
研究人生—そのデモンニッシュなる旅	兼松 秀行	(34)
「運・鈍・根」プラス「感」	元村有希子	(36)
「見せる」だけじゃない～研究する動物園～	尾形 光昭	(38)
国際機関で働く	齋藤 健	(40)
夢と現のハザマ	福井 作蔵	(43)
偉大な研究者、そして教育者と接して	黒田 章夫	(45)
アメリカ博士留学という選択	前田 宏	(47)
波に乗るのか、流されるのか	工藤 季之	(48)
なぜ私が応用菌学（微生物学）の道に入ったか？	富田 房男	(49)
自分の研究を長時間興味尽きさせずに語れるか	石井 茂孝	(51)
研究にはコミュニケーションが大事 —「酵母マフィア」への道—	北本 宏子	(52)
企業とアカデミック研究機関における研究の相違点 —創薬リード化合物探索研究を例に—	新家 一男	(53)
日本独自の自然・文化に根ざした独創性	横関 健三	(55)
私の若かった頃の思い出	萱野 暁明	(57)
寄り道・まわり道・弁理士までの道	前 直美	(59)
理解、協力、感謝、信頼	黒岩 麻里	(61)
若手理系人のための大学院教育プログラムの開発	水月 ゆう子	(62)

ノバルティス・バイオキャンプ ～夢・挑戦・喜び～	松本 正	(64)
医薬品製造業界と生物工学研究者	村上 聖	(66)
機械工学から医学へ、さらに情報工学へと挑戦する！	赤川 英毅	(67)
農芸化学からバイオテクノロジーに至る道 ～学ぶ機会を大切に～	平井 輝生	(69)
科学技術系のキャリアパス：天職はどこにある？	大隅 典子	(71)
マスコミで働くということ「医者、記者、役者、研究者」	中野 恵子	(72)
Love is the essence of research life.	松永 幸大	(73)
好奇心を形に、夢を社会へ	近江谷克裕	(74)
花は桜木、人は武士 ー我、研究生活を想ふー	福澄 岳雄	(76)
信州でテニュアトラック研究生活	新井 亮一	(78)
企業での研究という仕事	矢ヶ崎 誠	(79)
現場で威力を発揮する“つなぐ力”いま求められるサイエンスコミュニケーションの資質	佐々 義子	(81)
理科教育と新学習指導要領	穴澤 秀治	(83)
安心してください！生物工学にはこのような人間もおります	小川亜希子	(85)
オープンイノベーション時代の企業研究職からの転進	江口 有	(86)
次世代型生命医科学者の養成：九州大学医学研究院の取り組み	續 輝久・飛松 省三	(88)
プロフェッションとしての研究者	原山 優子	(91)
知の市場の展開 ー化学・生物総合管理の再教育講座の5年間の軌跡ー	増田 優	(93)
企業で働くということ	永井 幸枝	(97)
だれが与えてくれたのか？ ー超音波霧化分離法という贈り物ー	松浦 一雄	(99)
性の進化に魅せられて	桂 有加子	(101)
2025年の日本と世界を担うバイオ人材の育成	西山 徹	(102)
企業研究者の夢 ～やってみなくちゃ！～	東田 英毅	(104)
サイエンティストとエンジニアの両立は可能か？	藤田 聡	(107)
来たれインターカレッジ・バイオリダーズへ	松本 正	(109)
バイオセンサの将来性	石森 義雄	(111)
生き物と生き物を相手にする人の魅力を伝えたい～生物系書籍の編集者として	塩坂比奈子	(113)
NEDOとしての研究への関わり	林 智佳子	(116)
社会実践生物学とブレインストーミング実習 ～発想力と実践力をいかにして伸ばすか	古本 強・坪田 博美・植木 龍也・三浦 郁夫	(117)
技術者の社会貢献 ～NPO法人という選択肢～	宮入賢一郎	(122)
自分の原点と経験を大切に	山村(永井)裕美	(123)
販売促進する仕事 ～通り過ぎる一瞬に思いを込めて	綿引 志帆	(124)
魅力的な学生・大学院生になるために 文部科学省大学院教育改革支援プログラム 東京医科歯科大学大学院・生命情報科学教育部 国際産学リンケージプログラムの試み	竹本 佳弘	(125)
宇宙生物学への誘い	大島 泰郎	(129)